



絵を見て昔をなつかしむ入園者

画で
お年
寄りの気
持ちは和
やかしょ
うと「癒
しの絵画
展」が、

4月15日～4月22日まで、ふる里の丘総合福祉館で開催されました。

同展では、黒松内町在住の上田 茂氏の「昔の生活を描いた」作品8点と「幻想的な風景」を描いた13点、合わせて21点の水彩画を展示。作品は、淡いトーンの精密なタッチで、生活や土のにおいが溢れています。

お年寄りらは、「こんな家があったね」と昔を懐かしんだり、ふきのとうやかたくりの絵に春を感じていました。

5月20日、10時から本町保育所でも同展が開かれます。

郷愁と温もりあふれる 癒しの絵画展

優雅なコチョウラン 町民を魅了

4月15日から25日まで、役場庁舎ロビーで、「千紫万紅・洋ラン展」が開催されました。

入江4区在住の米内山タミ子さんが育てたコチョウラン50鉢がロビーに展示され、役場を訪れた町民の目を楽せました。今回展示されたのは、白く美しいファレノプシスと赤紫系のドリテノプシスの2種類です。

米内山さんは、20年ほど前からコチョウランを育てていて、自宅には約90鉢ほどの洋らんがあり、今回はそのうちの約半数を展覧しました。



コチョウランに見入る来訪者

米内山さんは「優雅でいつ見てもあきないし、心をおちつかせてくれる」とランの魅力を話しました。

酪農学園大学の新入生説明会 洞爺湖で実践的教育

洞爺湖町と地域総合交流協定を結んでいる酪農学園大学が、4月11、12の両日、成香教育センターで新入生のオリエンテーションを行いました。

参加したのは、同大環境共生学類の新1年生142人を含む総勢約200人で、洞爺湖町での合宿説明会は、平成24年から3年目になります。

同大は、平成21年に協定締結し、当町をフィールドに、洞爺湖の水質や中島のシカ、ウチダザリガニなどを調査、研究してきました。



ブースで上級生の話聞く1年生

翌日は、ミニ野外実習を行い、研究テーマ別のブースを、新入生が回り、上級生の説明を聞きました。



金比羅火口近くから洞爺湖を臨む参加者

2000年有珠山噴火遺構を巡り、防災、減災への意識を深めようと「有珠山噴火2000年噴火を追う」

(洞爺湖ビジターセンター主催)が4月19日行われ、札幌市と地元住民6人が参加しました。

今回は2000年噴火を辿るということで、噴火の順番通り旧とうや湖幼稚園をスタートした参加者は、同センターの佐々木伸さんのガイドで、西山散策路南口、同北口、ゴミ焼却炉、金比羅火口A、金比羅遺構公園を辿り、洞爺湖ビジターセンターまでの約2.6kmの道のりを、災害遺構を見学しながら歩きました。参加者の一人は「ガイドの説明が詳しく、勉強になりました」と春の香りを感じる有珠山ウォーキングを楽しんでいました。

噴火遺構を歩く 防災・減災への理解深める



まちのわだい